

「奈良巡りの会」報告文 ②

今回の奈良巡りの会は、奈良ソムリエの平越真澄先輩の企画でして、普段はなかなか見ることができないところをたくさん見て回れるということで、とても楽しみにしていました。そして迎えた6/11日曜日は、数日前まで雨天の天気予報だったにも関わらず、当日は曇り空で、非常に過ごしやすいカラっとした空気ですスタートしました。

【ルート】

元興寺→十輪院→新薬師寺→頭塔→春日大社 / 総勢 12名 (男子7名・女子5名)

元興寺は、飛鳥にある飛鳥寺を718年移転したとされる奈良町にある天平の行基尊が見事なお寺で、ここでは2種類の智光曼荼羅を鑑賞し、見事な蓮の花々を愛でることができました。

花崗岩の石室の中でお地蔵さまを祀る十輪院では、尼僧様が出てお話しくださり、鎌倉時代から残る柱の形や設計について、詳細に教えてくださり、非常に歴史を感じることができました。中でも柱の内側は丸みを帯びており、外側は角張るよう彫られていることや、地蔵菩薩と参拝者が視線を合わせられるよう、屋根を低く設計されているといったお話が大変興味深かったです。

そして、新薬師寺では、普段はなかなかみることができないステンドグラスやおたま地蔵を拝見することができ、とても印象的でした。特別に扉を開けてくださってステンドグラスから光が差しこみ、その光を浴びた薬師如来、12神将の色合いは非常に風情がありました。また、景清地蔵は、修理を出してレントゲン写真を撮った際、中に裸の仏像、おたま地蔵が入っていたことがわかって取り出した秘話等は、参加者一同、驚きの連続でした。個人的には、非常に興味深い話なので皆さんも拝観されれば良いのにと、強く思いました。

最後に訪れた頭塔は通称 奈良のピラミッドと呼ばれ、側面に彫られた石仏22基が一括して重要文化財に指定されています。以前からどこにあるのか気になっていましたが、まさかホテルの横にあるとは、驚きました。

いずれのお寺でも石仏等に描かれている梵字について、平越先輩から解説があり、どの仏像がお地蔵さまなのか、阿弥陀如来なのか、といったこともわかるようになり、今まであまりよくわかっていなかった仏教について、少しだけでもわかるようになり、面白くなりました。

また、今回の「奈良巡りの会」では、今まで何度も通ったことがあったのに全く気にもとめたことがなかったような猿沢池すぐ横の絵描き橋の由来を鈴木先輩から教えていただくなど、今回参加させていただくことで、新たなならまちの魅力に気づかされ、非常に充実した一日となりました。秋の「奈良巡りの会」もとても楽しみです！

(平成16・総合政策卒 西野あすか)